

健康科学・看護学専攻シラバス

2017年度

東京大学大学院医学系研究科

平成29年度健康科学・看護学専攻講義科目一覧

平成29年4月

科目番号	科目名		担当教員	曜日・時間	ターム	開始日・その他連絡事項	単位	講義室
41721111	健康社会学特論	I	近藤 尚己 准教授	木:1&2	A1	9月28日(木)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721112	健康社会学特論	II	橋本 英樹 教授	金:1&2	A1	9月29日(金)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721121	精神保健学特論	I	川上 憲人 教授	火:5	S1・S2	4月11日(火)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721122	精神保健学特論	II	川上 憲人 教授	火:5	A1・A2	10月3日(火)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721131	疫学・予防保健学特論	I	大庭 幸治 准教授	木:1&2 (10:00~ 12:00)	S1	4月6日(木) 単位取得希望者は開始日に出 席のこと。	2	医学部3号館別棟5F (E501)
41721132	疫学・予防保健学特論	II	大庭 幸治 准教授	木:1&2 (10:00~ 12:00)	A1・A2	9月28日(木) 単位取得希望者は開始日に出 席のこと。	2	医学部3号館別棟5F (E501)
41721141	健康学習・教育学特論	I	橋本 英樹 教授	金:1&2	A2	11月24日(金)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721142	健康学習・教育学特論	II		開講しない				
41721161	生物統計学特論	I	松山 裕 教授	水:5&6	S1	4月5日(水) 単位取得希望者は開始日に出 席のこと。	2	医学部3号館別棟5F (E501)
41721162	生物統計学特論	II	松山 裕 教授	水:5&6	A1・A2	9月27日(水) 単位取得希望者は開始日に出 席のこと。	2	医学部3号館別棟5F (E501)
41721171	医療倫理学特論	I	赤林 朗 教授 瀧本 禎之 准教授	木:5&6	S1	4月6日(木)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721172	医療倫理学特論	II	赤林 朗 教授 瀧本 禎之 准教授	木:5&6	S2	6月8日(木)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721211	看護体系・機能学特論	I	武村 雪絵 准教授	月:1&2	S2	6月5日(月)	2	医学部3号館:S201/202
41721212	看護体系・機能学特論	II		開講しない				
41721221	看護管理学特論	I	武村 雪絵 准教授	月:1&2	S1	4月10日(月)	2	医学部3号館:S201/202
41721222	看護管理学特論	II	武村 雪絵 准教授	月:1&2	A1	9月25日(月)	2	医学部3号館:N203
41721231	高齢者在宅長期ケア看護学特論	I	山本 則子 教授	木:3&4	S1・S2	4月13日(木)	2	医学部5号館:210
41721232	高齢者在宅長期ケア看護学特論	II	山本 則子 教授	木:3&4	A1・A2	10月5日(木)	2	医学部5号館:210
41721241	緩和ケア看護学特論	I	山本 則子 教授	木:3&4	S1・S2	4月6日(木)	2	医学部5号館:210
41721242	緩和ケア看護学特論	II	山本 則子 教授	木:3&4	A1・A2	9月28日(木)	2	医学部5号館:210
41721251	家族看護学特論	I	上別府 圭子 教授	金:3&4	S1	4月14日(金) 受講希望者は、4月7日(金)まで に、教室主任<kkamibeppu- tky@umin.ac.jp>まで連絡してくださ い。	2	医学部5号館:105
41721252	家族看護学特論	II	上別府 圭子 教授	金:3&4	A2	12月1日(金) 受講希望者は、11月17日(金)まで に、教室主任<kkamibeppu- tky@umin.ac.jp>まで連絡してくださ い。	2	医学部5号館:107
41721261	地域看護学特論	I	成瀬 昂 講師	火:3&4	S2	6月6日(火) 日程等を変更することがあります。詳細 は別途掲示します。	2	医学部5号館:109
41721262	地域看護学特論	II	成瀬 昂 講師	火:3&4	S2・A1	9月12日(火) 日程等を変更することがあります。詳細 は別途掲示します。	2	医学部5号館:109

平成29年度健康科学・看護学専攻講義科目一覧

平成29年4月

科目番号	科目名	担当教員	曜日・時間	学期	開始日・その他連絡事項	単位	講義室
41721271	精神看護学特論 I	川上 憲人 教授	火:2	S1・S2	4月11日(火)	2	医学部3号館3F:S308
41721272	精神看護学特論 II	宮本 有紀 准教授	火:1&2	A1	9月26日(火) 10:30~	2	医学部3号館3F:S308
41721281	老年看護学特論 I	真田 弘美 教授	月:3&4	S1	5月1日(月)	2	医学部3号館:S102
41721282	老年看護学特論 II	真田 弘美 教授	月:5&6	A1	9月25日(月)	2	医学部3号館:N101
41721291	母性看護学・助産学特論 I	春名 めぐみ 准教授	木:3&4	S1	4月6日(木) 講義日程等の詳細は別途掲示 します。 ※受講希望者は、母性看護学・ 助産学分野の春名(E-mail: mharuna@m.u-tokyo.ac.jp)、また は内線23379までご連絡下 さい。	2	医学部5号館:315
41721292	母性看護学・助産学特論 II	春名 めぐみ 准教授	木:3&4	A1	9月14日(木) 講義日程等の詳細は別途掲示 します。 ※受講希望者は、母性看護学・ 助産学分野の春名(E-mail: mharuna@m.u-tokyo.ac.jp)、また は内線23379までご連絡下 さい。	2	医学部5号館:315
41721311	保健医療情報学特論 I	大江 和彦 教授	木:3	S1・A1	4月6日(木) 受講者は前もってシラバス記載の 連絡先に連絡すること。	2	病院管理研究棟4F 企画情報運営部会議室
41721312	保健医療情報学特論 II	大江 和彦 教授	木:3	A2・W	11月30日(木) 受講者は前もってシラバス記載の 連絡先に連絡すること。	2	病院管理研究棟4F 企画情報運営部会議室
41721321	放射線健康科学特論 I	宮川 清 教授	木:5	S1・A1	4月6日(木) 受講希望者は事前に内線23503ま で連絡してください。	2	臨床研究棟:A909
41721322	放射線健康科学特論 II	宮川 清 教授	木:5	A2・W	11月30日(木) 受講希望者は事前に内線23503ま で連絡してください。	2	臨床研究棟:A909
41721331	音声言語保健学特論 I		開講しない				
41721332	音声言語保健学特論 II		開講しない				
41721341	歯科保健学特論 I		開講しない				
41721342	歯科保健学特論 II		開講しない				
41721351	行政看護学特論 I	成瀬 昂 講師	水:1&2	S2・A1	9月13日(水) 日程等を変更す ることがあります。詳細は別途掲示 します。	2	医学部5号館:109
41721352	行政看護学特論 II		開講しない			2	
41721361	創傷看護学特論 I	真田 弘美 教授	月・金:3& 4	S1	4月7日(金)	2	医学部3号館:S102、 S201
41721362	創傷看護学特論 II	真田 弘美 教授	月:5&6	A2	11月20日(月)	2	医学部3号館:N101、 S102、S201/202
41721381	医療コミュニケーション学特論 I	石川 ひろの 准教授	火:3&4	S1	4月11日(火)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室
41721382	医療コミュニケーション学特論 II	石川 ひろの 准教授	水:3&4	S2	6月7日(水)	2	教育研究棟13F 公共健康医学専攻講義室

各講義の開始日や教室などは、掲示などを十分注意して、常に確認して下さい。

S1:平成29年4月5日(水)~6月2日(金) / S2:平成29年6月5日(月)~7月31日(月)

A1:平成29年9月25日(月)~11月17日(金) / A2:平成29年11月20日(月)~平成30年1月26日(金) /

W:平成30年1月29日(月)~3月7日(水)

科目番号	41721111	授業科目名	健康社会学特論 I		
学 期	A1	曜 日	木	時 限	1-2
担 当 教 員	近藤尚己・橋本英樹・川上憲人・外部講師：児玉聡・本庄かおり・藤原武男				
講 義 室	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室				
授業開始日	9 月 28 日				
授業の目的	<p>貧困や社会関係、差別など、健康に影響を与える社会的な要因 (Social Determinants of Health: SDH) についての理論と最近の知見を学ぶ。社会疫学でよく用いられる計量分析技術のうち公衆衛生全般に広く応用可能なものも紹介する。</p>				
授業の方法	講義・事前配布資料・レポート				
授 業 日 程	<p>1) 社会疫学概論 (近藤) 9/28 1 限 2) 個人と社会の関係 (橋本) 9/28 2 限 3) 社会経済状況 (近藤) 10/5 1 限 4) 景気動向・所得格差 (近藤) 10/5 2 限 5) 社会関係 (近藤) 10/12 1 限 6) ソーシャル・キャピタル (近藤) 10/12 2 限 7) 胎児期からの社会環境：ライフコース疫学 (藤原) 10/19 1 限 8) 差別・職業 (川上) 11/9 1 限 9) ジェンダー格差 (本庄) 10/19 2 限 10) 健康の平等と倫理 (児玉) 11/9 2 限 11) 社会疫学の因果推論 (近藤) 11/16 1 限 12) レビューセッション (近藤) 11/16 2 限</p> <p>講師の都合により日時変更の可能性あり。</p>				
教科書及び参考書	<p>テキスト：川上憲人ほか「社会と健康：健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ」東大出版会 参考書：「予防医学のストラテジー」ジェフリー・ローズ／「ソーシャル・キャピタルと健康」イチロー・カワチほか／「保健医療従事者のためのマルチレベル分析活用ナビ」藤野ほか／近藤尚己「健康格差対策の進め方」</p>				
成績評価	出席態度(40%)・レポート(60%)				
そ の 他	公共健康医学専攻「社会と健康 I」との共通開講科目。				

科 目 名	健康社会学特論Ⅱ			[科目番号 : 4 1 7 2 1 1 1 2]
タ ー ム	A 1	単 位 数	2単位	
曜日・授業時間帯	金(Fri)1 [08:30-10:15],金(Fri)2 [10:25-12:10]			
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担 当 教 員	橋本 英樹			
授 業 の 目 的	<p>社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。</p> <p>Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame.</p>			
授 業 の 方 法	講義と in-class discussion			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9/29 1) 1 限 Perspective of sociology and health sociology (橋本)</p> <p>9/29 2) 2 限 Medicine as social systems/power politics (橋本)</p> <p>10/6 3) 1 限 Social stratification and health (橋本)</p> <p>10/6 4) 2 限 Social relationship and health (杉澤)</p> <p>10/13 5) 1 限 medicalization and gaze (橋本)</p> <p>10/13 6) 2 限 sociology of community applied to health (高木)</p> <p>10/20 7) 1 限 complementary/alternative healthcare (中山)</p> <p>10/20 8) 2 限 Sociology of school health (朝倉)</p> <p>10/27 公衆衛生学会のため休講</p> <p>11/10 9) 1 限 Lay epidemiology, illness behavior (橋本)</p> <p>11/10 12) 2 限 sociology of health promotion (橋本)</p> <p>11/17 13) 1 限 world of medicine and chronic illness (橋本)</p>			
教科書・参考書等	<p>Lupton D. Medicine as culture; illness, disease, and the body. 2nd eds. SAGE, 2003</p> <p>他、適宜配布</p> <p>handouts and reading materials will be distributed beforehand</p>			
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)			
他の授業との関連				
備 考 欄	積極的発言・参加を高く評価する。講義時間以外(休み時間)の質問は原則受け付けない			

科目番号	41721121	授業科目名	精神保健学特論 I		
タ ー ム	S 1 + S 2	曜 日	火曜	時 限	5 限
担 当 教 員	川上憲人、今村幸太郎、宮本有紀、金吉晴（連携教授）、外部講師				
講 義 室	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室				
授業開始日	2017 年 4 月 11 日				
授業の目的	精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究（ケーススタディ）を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目的とする。				
授業の方法	各回 1 つのテーマについて担当教員（または外部講師）による講義と討議、質疑を行う。学生は各回の課題について事前に調べ持参する。課題発表 1 および 2 の回では、学生がグループでテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。				
授 業 日 程	<p>4 / 1 1 1) オリエンテーション、総論（川上）</p> <p>4 / 1 8 2) 精神疾患の疫学（川上）</p> <p>4 / 2 5 3) 精神健康の評価（川上）</p> <p>5 / 2 4) 第一次予防と心理社会的支援（宮本、今村）</p> <p>5 / 9 5) 精神健康のスクリーニング（川上）</p> <p>5 / 1 6 6) 精神保健のサービス利用（川上）</p> <p>5 / 2 3 7) 課題発表 1：科学的根拠に基づく精神保健対策</p> <p>6 / 6 8) トピックス①：自殺予防対策はどう進める（外部講師）</p> <p>6 / 1 3 9) トピックス②：薬物使用は犯罪か病気か（外部講師）</p> <p>6 / 2 0 10) トピックス③：精神保健行政の現状と課題（外部講師）</p> <p>7 / 4 11) トピックス④：災害時の精神保健（金）</p> <p>7 / 1 8 12, 13) 課題発表 2：精神保健対策を立案する（5, 6 限）※</p> <p>※最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。</p>				
教科書及び参考書	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。				
成績評価	出席（30%）、毎回の事前学習（10%）、課題発表 2（30%）、個人レポート（30%）により総合的に評価する。				
そ の 他	職場における精神保健対策について学ぶ「精神保健学特論 II」と関連する。				

科目番号	41721122	授業科目名	精神保健学特論 II		
学 期	A1 & A2	曜 日	火曜日	時 限	5 限
担 当 教 員	川上憲人、非常勤講師				
講 義 室	医学部・教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻講義室				
授業開始日	10月3日(火)				
授業の目的	職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。				
授業の方法	各回1テーマの講義あるいは事例研究(ケーススタディ) 担当教員(または非常勤講師)による講義と全員での討論。				
授 業 日 程	10/ 3 コース概要, 産業精神保健総論 10/10 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策 10/17 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 10/24 外部 EAP によるメンタルヘルス支援 10/31 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 11/ 7 職場のいじめとメンタルヘルス 11/14 経営と産業保健は協調できるか? 11/21 腰痛とメンタルヘルス 11/28 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス 12/ 5 労働者の復職支援プログラム 12/12 中小規模事業所のメンタルヘルス対策 12/19 人事からみたメンタルヘルス対策 1/ 9 海外勤務者のメンタルヘルス支援 1/16 これからの職場のメンタルヘルス				
教科書及び参考書	毎回、講義資料を配付する。				
成績評価	出席(30%)、レポート(70%)により総合的に評価する。				
そ の 他	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学特論 I」を受講していることが望ましい。				

科目番号	41721131	授業科目名	疫学・予防保健学特論 I		
学 期	S1	曜 日	木	時 限	2
担当教員	大庭 幸治				
講 義 室	医学部 3 号館別棟 5 階 (E501)				
授業開始日	4 月 6 日 10:00				
授業の目的	<p>下記の教科書の 13 章から輪読する。</p> <p>Rothman KJ, Greenland S, Lash TL. <i>Modern Epidemiology</i>, 3rd edition. Philadelphia: Lippincott-Williams-Wilkins, 2008.</p>				
授業の方法	輪読形式				
授 業 日 程	<p>4 月 6 日より毎週木曜日の午前 10 時 00 分から 12 時 00 分。 祝祭日を除いて下記の日程で行う予定。</p> <p>4 月 6 日 (木) ~ 6 月 1 日 (木) : 全 8 回</p>				
教科書及び 参 考 書	上記指定の教科書				
成 績 評 価	毎回の出席と 1 回以上の発表で単位を認定する。				
そ の 他	単位取得希望者は初回に出席のこと。				

科目番号	41721132	授業科目名	疫学・予防保健学特論 II		
学 期	A1, A2	曜 日	木	時 限	2
担当教員	大庭 幸治				
講 義 室	医学部 3 号館別棟 5 階 (E501)				
授業開始日	9 月 28 日 10:00				
授業の目的	指定した教科書または論文を輪読する。 詳細は教室ホームページに記載するため、確認すること。 http://www.epistat.m.u-tokyo.ac.jp/curriculum/				
授業の方法	輪読形式				
授 業 日 程	9 月 28 日より毎週木曜日の午前 10 時 00 分から 12 時 00 分。 祝祭日を除いて下記の日程で行う予定。 9 月 28 日 (木) ~ 12 月 21 日 (木)				
教科書及び 参 考 書	上記指定の教科書				
成 績 評 価	毎回の出席と 1 回以上の発表で単位を認定する。				
そ の 他	単位取得希望者は初回に出席のこと。				

科 目 名	健康学習・教育学特論 I [科目番号：41721141]		
タ ー ム	A 2	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	金(Fri)1 [08:30-10:15], 金(Fri)2 [10:25-12:10]		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。		
授 業 の 方 法	講義、グループディスカッション、ケースメソッドなどを組み合わせる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	11/24 1)1限 Micro-meso level of behavioral theories (橋本) 11/24 2)2限 Population level of behavioral theories (橋本) 12/1 3)1限 Micro-meso level theories applied (橋本) 12/1 4)2限 Macro level theories applied (橋本) 12/8 5)1限 Empowerment approach in community I (岩永) 12/8 6)2限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/15 7)1限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 12/15 8)2限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 1/12 9)1限 Health literacy and ethics of behavioral modification (橋本) 1/12 10)2限 Public intervention for community health (馬場) 1/19 11)1限 wrap-up discussion		
教科書・参考書等	Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education: Theory, Research and Practice. 4th eds. John Willey and Sons, 2008 畑 栄一, 土井 由利子. 行動科学—健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第 2 版 :他、適宜配布 handouts and reading materials will be distributed beforehand.		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)		
他の授業との関連			
備 考 欄	積極的発言・参加を高く評価する. 講義中以外(休み時間)の質問は原則受け付けない		

科目番号	41721161	授業科目名	生物統計学特論 I		
タ ー ム	S1	曜 日	水	時 限	5・6限
担 当 教 員	松山 裕, 坂巻 顕太郎 (非常勤講師)				
講 義 室	医学部 3号館別棟 5F (E501)				
授業開始日	4月5日				
授業の目的	生物統計学における基礎的で重要な理論・手法や、それらの現実問題への応用例を学ぶことにより、統計的なものの考え方を習得することを狙いとす。				
授業の方法	講義時間は、毎回 17:00-19:00				
授 業 日 程	<p>講義時間は、毎回 17:00-19:00</p> <p>4月5日 確率と確率分布 4月12日 推定論 4月19日 仮説検定論 4月26日 実験計画・一般線型モデル 5月10日 カテゴリカルデータ解析・一般化線型モデル 5月17日 生存時間解析 5月24日 ベイズ統計学</p>				
教科書及び参考書					
成績評価	出席+毎回の宿題				
そ の 他	希望者は1回目の講義に出席すること				

科目番号	41721162	授業科目名	生物統計学特論Ⅱ		
タ ー ム	A1, A2	曜 日	水	時 限	5・6限
担当教員	松山 裕				
講 義 室	医学部3号館別棟5F (E501)				
授業開始日	9月27日				
授業の目的	<p>指定した教科書または論文を輪読する。 詳細は教室ホームページに記載するため、確認すること。 http://www.epistat.m.u-tokyo.ac.jp/curriculum/</p>				
授業の方法	輪読形式				
授 業 日 程	<p>9月27日より毎週水曜日の午後5時00分から7時00分。 祝祭日を除いて下記の日程で行う予定。 9月27日(水) ～ 12月20日(水)</p>				
教科書及び 参 考 書					
成 績 評 価	出席+毎回の宿題				
そ の 他	希望者は1回目の講義に出席すること				

科目番号	41721171	授業科目名	医療倫理学特論 I
学 期	S1	曜 日	木曜
時 限	5～6 時限		
担当教員	赤林 朗・瀧本 禎之		
講 義 室	医学部教育研究棟 13F SPH 講義室		
授業開始日	2017年4月6日（木曜日）		
授業の目的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授業の方法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授 業 日 程	<p>(1) 生命・医療倫理学とは / 倫理学の基礎 1</p> <p>(2) 倫理学の基礎 2 / 医療倫理の原則と重要概念</p> <p>(3) 臨床症例の倫理的検討法</p> <p>(4) ケアの倫理 / 生殖補助医療</p> <p>(5) IC の法理 / 終末期医療</p> <p>(6) 守秘義務 / 研究倫理</p> <p>(7) 模擬倫理委員会</p>		
教科書及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤林朗（編著）『入門・医療倫理 I』 勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著（赤林、蔵田、児玉監訳）『第 5 版臨床倫理学——臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』 新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Hope, T. 著（児玉聡・赤林朗訳）『一冊で分かる医療倫理』 岩波書店 		
成績評価	平常点（30%）、及び最終レポート（70%）により評価する。		
そ の 他	「医療倫理学特論 II」受講の基礎となる内容である。		

科目番号	41721172	授業科目名	医療倫理学特論 II
学 期	S2	曜 日	木曜
時 限	5～6 時限		
担当教員	赤林 朗・瀧本 禎之		
講 義 室	医学部教育研究棟 13F SPH 講義室		
授業開始日	2017年6月8日（木曜日）		
授業の目的	公衆衛生倫理と臨床倫理コンサルテーションの2つの領域に関して実践的な知識を涵養するために、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授業の方法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授 業 日 程	(1) 公衆衛生倫理入門 (2) 公衆衛生・政治哲学 (3) 研究者の倫理と不正 / 医療における意思決定 (4) 倫理コンサルテーション I (5) 資源配分と新型インフルエンザ (6) 健康格差と正義 (7) 倫理コンサルテーション II		
教科書及び参考書	・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 I』 勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著 (赤林、蔵田、児玉監訳)『第5 版臨床倫理学——臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』 新興医学出版 ・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Hope, T. 著 (児玉聡・赤林朗訳)『一冊で分かる医療倫理』 岩波書店		
成績評価	出席 (30%)、及び最終レポート (70%) により評価する。		
そ の 他	医療倫理学特論 I の内容を前提とする。		

科目番号	41721211	授業科目名	看護体系・機能学特論 I
タ ー ム	S2	曜 日	月 時 限 1・2
担 当 教 員	武村雪絵, 非常勤講師		
講 義 室	医学部 3 号館 S201/202 号室		
授業開始日	平成 29 年 6 月 5 日		
授業の目的	変化する保健医療制度の中で看護学ならびに看護実践を取り巻く環境・情勢を学び、講義とディスカッションを通じて、看護の役割と機能、及び、看護を取り巻く環境に働きかけるプロセスについて考察を深める。		
授業の方法	担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション		
授 業 日 程	6 月 5 日 ガイダンス (2 限のみ) 6 月 12 日 看護起業家としての挑戦 (ケアプロ株式会社代表取締役社長 川添高志) 6 月 19 日 法学者の立場で紐解く医療の中の看護 (前國學院大學法科大学院教授 平林勝政) 6 月 26 日 保健医療行政での理想の実現を目指して (厚生労働省 島田陽子) 7 月 3 日 ケアリング・コミュニタリアニズムの提案 (千葉大学大学院人文社会科学研究所教授 小林正弥) 7 月 10 日 プレゼンテーション・セッション 7 月 24 日 看護の現場と政治をつなぐ (参議院議員 石田昌宏)		
教科書及び参考書	各講義で資料の配布、参考図書を紹介を行う		
成績評価	出席、ディスカッションへの参加、講義後レポート、および 7 月 10 日のプレゼンテーションと最終レポートにより統合的に評価する		
そ の 他	講師の都合により日時変更の可能性がある。 受講希望者は初回ガイダンスに出席すること。 連絡先：看護管理学分野代表 (内線 23524) NA_ACN_utokyo-office@umin.ac.jp		

科目番号	41721221	授業科目名	看護管理学特論 I
タ ー ム	S1	曜 日	月 時 限 1・2
担 当 教 員	武村雪絵, 非常勤講師		
講 義 室	医学部 3 号館 S201/202 号室		
授業開始日	平成 29 年 4 月 10 日		
授業の目的	看護管理学とは、看護の力を効果的に患者に届け社会に活かす方法を探求する学問であり、看護の視点や価値観を組織活動に活かすことを追究する学問である。本科目では、看護管理学において重要な概念である「組織」と「人」を理解する基盤となる理論を学び、さらに組織における人の行動に影響を与える「環境」について学ぶ。また、病院経営部門で活躍している MBA 取得看護職、看護の可視化と質保証に取り組んでいる看護職工学研究者、組織開発を実践・研究している経営学研究者から講義を受け、ディスカッションを行う。これらを通じて看護管理学の概要を理解し、組織に働きかける際、あるいは、組織を研究する際に必要となる知識やパースペクティブを涵養することを目的とする。		
授業の方法	担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション		
授 業 日 程	4 月 10 日 ガイダンス (初回は 2 限のみ) 4 月 17 日 組織論/ミッションマネジメント 4 月 24 日 病院経営の現場から (東京ベイ・浦安市川医療センター 井出恵伊子) 5 月 8 日 リーダーシップ/キャリア発達 5 月 15 日 医療システム社会工学による看護の臨床知の可視化と質保証 (東京大学大学院工学系研究科 水流聡子) 5 月 22 日 【公開授業】臨床に活かす組織開発 (甲南大学経営学部経営学科 北居明) 5 月 29 日 プレゼンテーション・セッション		
教科書及び参考書	各講義で資料の配布、参考図書を紹介を行う		
成績評価	出席、ディスカッションへの参加、講義後レポート、および最終回のプレゼンテーションと最終レポートにより統合的に評価する		
そ の 他	講師の都合により日時変更の可能性がある。 5 月 22 日の公開授業は時間・場所が変更になる可能性があるので注意すること (決まり次第授業及び研究室ホームページで通知する)。 受講希望者は初回ガイダンスに出席すること。 連絡先：看護管理学分野代表 (内線 23524) NA_ACN_utokyo-office@umin.ac.jp		

科目番号	41721222	授業科目名	看護管理学特論Ⅱ
タ ー ム	A1	曜 日	月 時 限 1・2
担 当 教 員	武村雪絵		
講 義 室	医学部 3 号館 N203 号室		
授業開始日	平成 29 年 9 月 25 日		
授業の目的	<p>ネットワークは、固定されたチーム内の協働ではなく、人々が分野を越えて結び合い即興的に協働する現象を説明する新しい活動理論で、保健医療福祉や教育の領域でこの理論を用いた実証的な事例研究が行われつつある。本科目では、人々の結び目「knot」をつくりながら参加者の役割が刻々と自在に変化してゆく、しなやかな協働の形態である「ネットワーク」について、抄読とディスカッションを通じて理解を深めることを目的とする。</p>		
授業の方法	教科書（ユーリア・エンゲストローム：ネットワークする活動理論—チームから結び目へ）の抄読とディスカッション		
授業日程	<p>9月25日 ガイダンス（2限のみ）</p> <p>10月2日 まえがき・はじめに・1章／2章</p> <p>10月16日 3章／4章</p> <p>10月23日 5章</p> <p>10月30日 6章</p> <p>11月6日 7章／8章</p> <p>11月13日 9章・あとがき</p>		
教科書及び参考書	<p>【教科書】</p> <p>ユーリア・エンゲストローム著，山住勝広・山住勝利・蓮見二郎訳：ネットワークする活動理論—チームから結び目へ．新曜社，2013.</p> <p>【参考図書】</p> <p>山住勝広著，ユーリア・エンゲストローム編.：ネットワーク—結び合う人間活動の創造へ．新曜社，2008.</p>		
成績評価	出席、ディスカッションへの参加、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する		
その他	<p>講師の都合により日時変更の可能性がある。 受講希望者は初回ガイダンスに出席すること。 ガイダンスの際に抄読の分担を決めるので、出席できない場合は事前に連絡すること。</p> <p style="text-align: right;">連絡先：看護管理学分野代表（内線 23524） NA_ACN_utokyo-office@umin.ac.jp</p>		

科目番号	41721231	授業科目名	高齢者在宅長期ケア看護学特論 I		
学 期	S1 S2	曜 日	木曜日	時 限	3・4 時限
担当教員	山本則子, 五十嵐歩, 山花令子, 野口麻衣子, 御子柴直子, 非常勤講師				
講 義 室	医学部 5 号館 210 号室				
授業開始日	平成 29 年 4 月 13 日				
授業の目的	①長期ケア long-term care 及び在宅ケア home care 研究に必要な基本的知識・枠組みを習得する ②長期ケアの質保証・向上に向けた研究のあり方について検討する				
授業の方法	担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 海外における長期ケアの質保証・向上に関する研究の現状 3. 長期ケアに関する文献の輪読 ① 4. 療養病床における医療の質指標開発と活用状況 5. 長期ケアに関する文献の輪読 ② 6. 在宅ケアの質保証：マクロ分析 7. 長期ケアに関する文献の輪読 ③ 8. 訪問看護の可視化：事業所のとりくみ 9. 長期ケアに関する文献の輪読 ④ 10. 人生の最終段階におけるケアの質 11. 長期ケアに関する文献の輪読 ⑤ 12. 長期ケアに関する文献の輪読 ⑥ 13. まとめ：リサーチクエスションの設定 				
教科書及び参考書	Graham D. Rowles, Pamela B. Teaster. Long-term care in aging society. Springer, New York, 2016. (予定)				
成績評価	出席, ディスカッションへの参加及び課題内容により統合的に評価する				
そ の 他	受講希望者は 4 月 13 日の初回ガイダンスに出席すること. 連絡先：高齢者・在宅・長期ケア看護学教室 事務 松本 (内線 23508) e-mail: etsukom-tky@umin.ac.jp までご一報ください				

科目番号	41721232	授業科目名	高齢者在宅長期ケア看護学特論Ⅱ		
タ ー ム	A1 A2	曜 日	木曜日	時 限	3・4時限
担 当 教 員	山本則子, 五十嵐歩, 山花令子, 野口麻衣子, 御子柴直子, 非常勤講師				
講 義 室	医学部 5 号館 210 号室				
授業開始日	平成 29 年 10 月 5 日				
授業の目的	長期ケア・訪問看護の質保証・向上研究の現状を理解し、今後の研究を展望する				
授業の方法	担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 療養病床におけるケアの質① 3. 療養病床におけるケアの質② 4. 長期ケアの質に関する文献の輪読① 5. 在宅医療の質に関する講義 6. 長期ケアの質に関する文献の輪読② 7. 在宅ケアにおけるケアの質 8. 長期ケアにおける Evidence Based Practice 9. 長期ケアの質に関する文献の輪読③ 10. 訪問看護におけるケアの質 11. 長期ケアの質に関する文献の輪読④ 12. 医療療養病床におけるケアの質指標の開発と実践 13. 長期ケア・訪問看護におけるケアの質指標の開発と実践 				
教科書及び参考書	Vincent Mor, Tiziana Leone, Anna Maresso. Regulating Long-Term Care Quality. Cambridge University Press, Cambridge, 2014. (予定)				
成績評価	出席, ディスカッションへの参加及び課題内容により統合的に評価する				
そ の 他	受講希望者 10 月 5 日の初回ガイダンスに出席すること. 連絡先: 高齢者・在宅・長期ケア看護学教室 事務 松本 (内線 23508) e-mail: etsukom-tky@umin.ac.jp までご一報ください				

科目番号	41721241	授業科目名	緩和ケア看護学特論 I		
学 期	S1 S2	曜 日	木曜日	時 限	3・4時限
担当教員	山本則子				
講 義 室	医学部 5 号館 210 号室				
授業開始日	平成 29 年 4 月 6 日				
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ① 知の開発過程における理論の意義・構造・発展に関する理解を深める ② 看護学の中での理論の位置づけを歴史的に理解する ③ 概念・理論の評価方法を学ぶ ④ 理論の調査研究への活用方法を学ぶ ⑤ 自分の研究課題の看護学の中での位置づけを検討する 				
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 講義と英文・和文文献の輪読に基づき、討議する ② 看護理論や参加者の研究領域で用いられる理論について、評価・活用を検討する（演習） 				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明・分担決定 これからの看護学の構造と機能 2. 看護学の研究者になるということ 3. 看護学において「知」とはどのようなものか 4. 看護学において「理論」とはどのようなものか 5. 看護学はどのように発展してきたか 6. 理論の評価 7. 概念構築 8. 理論構築 9. 看護理論の評価 10. 保健領域の研究に用いられる理論の評価 ① 11. 保健領域の研究に用いられる理論の評価 ② 12. 理論の調査研究への活用 ① 13. 理論の調査研究への活用 ② 				
教科書及び参考書	Meleis, A.I. (2012). Theoretical Nursing: Development & Progress (5 th ed.). Lippincott, Williams & Wilkins. など				
成績評価	出席・発表・クラス討論への参加により総合的に評価				
そ の 他	受講希望者は教室事務松本 etsukom-tky@umin.ac.jp までご一報ください。				

科目番号	41721242	授業科目名	緩和ケア看護学特論Ⅱ		
学 期	A1 A2	曜 日	木曜日	時 限	3・4時限
担 当 教 員	山本則子, 野口麻衣子				
講 義 室	医学部 5 号館 210 号室				
授業開始日	平成 29 年 9 月 28 日				
授業の目的	質的研究入門： 質的研究の方法について、グラウンデッド・セオリーを中心にして学ぶ。				
授業の方法	①講義と英文文献の輪読に基づき、討議する ②各自関心のある research question をたてて、データ収集と分析を行う (演習)				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質的研究の歴史・定義・目的・意義・種類 2. グラウンデッド・セオリー法のプロセス 3. フィールドに入る際の注意・参与観察によるデータ収集 4. インタビューによるデータ収集 ① 5. インタービューによるデータ収集 ② 6. データ分析：コーディング ① 7. データ分析：コーディング ② 8. データ分析：メモをとること・図表を手がかりにすること 9. データ分析：カテゴリーの統合 10. データ分析：ストーリーを作る 11. 厳密性の保証 12. 論文の執筆 13. 分析結果の発表と討議 				
教科書及び参考書	Corbin J. & Strauss A. (2015). Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory (4 th Ed). Sage. など				
成績評価	出席、発表、クラス討論への参加により総合的に評価				
そ の 他	受講希望者は教室事務松本 etsukom-tky@umin.ac.jp までご一報ください。				

科目番号	41721251	授業科目名	家族看護学特論 I
学 期	S1	曜日	金
		時限	3・4
担当教員	上別府圭子 (家族看護学分野 教授) 非常勤講師 渡辺俊之 (東海大学健康科学部社会福祉学科 教授) 石田也寸志 (愛媛県立中央病院 小児医療センター)		
講 義 室	医学部 5 号館 105 号室 (家族看護学演習室)		
授業開始日	4 月 14 日 (金)		
授業の目的	<p>「家族看護学特論 I」では、家族の支援に向けた研究論文の講読と、家族面接を中心としたインタビュー法の演習を隔年で行っています。</p> <p>今年は、家族に関する研究論文の講読を行います。家族の複雑な現象をいかにとらえるかについて、理論的な背景を学習し、研究の組み立て方を身につけることをねらいとします。</p> <p>また、実際の臨床素材として、小児がんをもつ子どもの家族の課題について考えます。</p>		
授業の方法	講義 および Journal の講読、討論		
授 業 日 程	<p>① 4 月 14 日 (金) 家族看護学的研究方法論とは 上別府</p> <p>② 4 月 21 日 (金) 研究論文講読・討論 上別府</p> <p>③ 4 月 28 日 (金) 小児がん患者のケア 石田</p> <p>④ 5 月 12 日 (金) 研究論文講読・討論 上別府</p> <p>⑤ 5 月 19 日 (金) 家族療法・家族研究 渡辺</p> <p>⑥ 5 月 26 日 (金) 研究論文講読・討論 上別府</p> <p>⑦ 6 月 2 日 (金) 研究論文講読・討論・まとめ 上別府</p> <p>※日程は変更の可能性があります。</p>		
教科書及び参考書	その都度、呈示します。		
成績評価	演習やディスカッションへの積極的な参加をもって成績評価とします。		
そ の 他	※受講希望者は 4 月 7 日 (金) までに下記に連絡してください。 上別府圭子 <kikamibepu@gmail.com >		

科目番号	41721252	授業科目名	家族看護学特論Ⅱ
タ ー ム	A2	曜 日	金
時 限	3・4		
担 当 教 員	上別府圭子、佐藤伊織、キタ幸子、副島堯史（家族看護学分野） 非常勤講師 渡辺俊之（東海大学健康科学部社会福祉学科 教授） 小林京子（聖路加国際大学看護学部 准教授）		
講 義 室	医学部 5 号館 107 号室		
授業開始日	12月1日（金）		
授業の目的	家族看護学の基礎をふまえ、家族を研究の対象とする時の特徴および計画立案を学ぶ		
授業の方法	第1-6回 担当教員による講義、参考にする分家員の提示と解説、 ディスカッション、演習 第7回 受講者による〔仮〕研究計画の発表とピアレビュー、まとめ		
授業日程	<p>① 12月1日（金）家族を対象とする文献の検索と整理（上別府・副島）</p> <p>② 12月8日（金）家族看護学研究の課題 ①量的研究法（小林）</p> <p>③ 12月15日（金）家族看護学研究のリサーチクエスト（キタ）</p> <p>④ 12月22日（金）家族にとってのアウトカムと概念化・指標化（渡辺）</p> <p>⑤ 1月5日（金）家族看護学研究の課題 ②質的研究法・事例研究（小林）</p> <p>⑥ 1月12日（金）問いにふさわしい家族看護学研究デザイン（佐藤）</p> <p>⑦ 1月19日（金）〔仮〕研究計画の発表とピアレビュー（教員全員）</p> <p>※ 日程は未定です。</p>		
教科書及び参考書	<p>上別府圭子編（2012）【特集】家族の研究・理解・支援：家族看護学を考える。保健の科学。54(8), (9)。杏林書院。</p> <p>原田隆之・大島巖・津富宏・上別府圭子監訳（2010）ランダム化比較試験（RCT）の設計 ヒューマンサービス、社会科学領域における活用のために。日本評論社。</p> <p>山崎あけみ（2008）家族看護実践に役立つ研究。山崎あけみ・原礼子編集、家族看護学-19 の臨床場面と8つの実践例から考える。p.221-262, 南江堂。</p> <p>※上記4冊は医学図書館に所蔵</p> <p>Polit, DF, Beck, CT. (2003) <i>Nursing Research: Principles and Methods (seventh edition)</i>. PA: Lippincott Williams & Wilkins.</p> <p>※上記1冊は家族看護学分野図書室に所蔵</p> <p>※その他関連文献は、随時講義中に紹介をします。</p>		
成績評価	出席状況・〔仮〕研究計画などのプレゼンテーションにより単位認定を行います。ただし、評価方法については、話し合いにより考慮し、変更することも可能です。		
そ の 他	受講希望者は、11月17日（金）までに下記に連絡をしてください。 あわせて、関心領域・持っている臨床上の問い、研究したいテーマを知らせてください。 連絡先：上別府圭子<kikamibeppu@gmail.com>		

科目番号	41721261	授業科目名	地域看護学特論 I		
タ ー ム	S2	曜 日	火曜日	時 限	3,4 限
担 当 教 員	成瀬昂, 藤崎万裕, 寺本千恵 (東京大学大学院 地域看護学分野) 田上豊 (埼玉県立大学 保健医療福祉学部) 小林小百合 (東京工科大学 医療保健学部)				
講 義 室	5号館 109号室				
授業開始日	2017年6月6日				
授業の目的	地域看護学の理論・実践・研究について修士レベルの教科書を使いながら学ぶと共に、地域看護活動の方法論の一つである地域組織活動の理論と応用を学ぶ。				
授業の方法	講義				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：地域看護学の概念と研究文献レビューの目的と方法 2. 研究デザイン・研究方法 3. 文献レビュー (演習) 4. 在宅ケアシステムの現状とこれまでの経緯 5. エスノグラフィー法を使った研究 6. 介入研究と地域のプログラム評価 7. 文献レビュー (発表) 				
教科書及び参考書					
成績評価	出席、文献輪読、発表・討議により評価する。				
そ の 他	講義日程、講師は変更になる場合があるため注意すること。 受講希望者は成瀬 (takanaruse-tky@umin.ac.jp) まで連絡すること。				

科目番号	41721262	授業科目名	地域看護学特論Ⅱ		
タ ー ム	S2&A1	曜 日	火曜日	時 限	3,4 限
担 当 教 員	成瀬昂, 藤崎万裕, 寺本千恵 (東京大学大学院 地域看護学分野) 飯坂真司 (淑徳大学 看護栄養学部), 永田智子 (慶應大学), 他				
講 義 室	5号館 109号室				
授業開始日	2017年9月12日				
授業の目的	地域看護学のトピックス及び方法論について、講義と輪読を通して学ぶ。				
授業の方法	講義				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディ 2. 尺度開発 3. GIS を使った地域包括ケアシステムの評価 4. 退院支援研究の現状と課題 5. Mixed Method 6. 高齢者の介護予防研究 7. グラウンデッド・セオリーアプローチ 				
教科書及び 参 考 書					
成 績 評 価	出席、文献輪読、発表・討議により評価する。				
そ の 他	講義日程、講師は変更になる場合があるため注意すること。 受講希望者は成瀬 (takanaruse-tky@umin.ac.jp) まで連絡すること。				

科目番号	41721271	授業科目名	精神看護学特論 I
学 期	S1+S2	曜 日	火
担 当 教 員	川上憲人		
講 義 室	医学部 3 号館 3 階 S308		
授業開始日	2017 年 4 月 11 日 (火)		
授業の目的	精神保健学・精神看護学では疫学的手法を用いた研究がその進歩に大きな役割を果たしている。この授業科目では、精神保健・精神看護をテーマとした疫学研究について、その進め方について基本的な技術を習得することを目的とする。		
授業の方法	研究仮説の設定、疫学研究デザインと統計手法の基礎、論文の読み方、データの収集、論文の書き方について講義を行う。各回に用意された演習を行う。あるいは原則毎回出される課題を学生が発表し討議を行う。		
授 業 日 程	第 1 回 4 月 11 日 研究とは何か・仮説を読み取る 第 2 回 4 月 18 日 疫学・生物統計学の基礎 (復習) 第 3 回 4 月 25 日 文献レビューの方法 第 4 回 5 月 2 日 精神保健・看護の疫学論文の読み方 第 5 回 5 月 9 日 論文を読む(1) 第 6 回 5 月 16 日 論文を読む(2) 第 7 回 5 月 23 日 論文を読む(3) 第 8 回 6 月 6 日 精神保健・看護の疫学論文の書き方 第 9 回 6 月 13 日 研究デザインとデータの収集(1) 第 10 回 6 月 20 日 研究デザインとデータの収集(2) 第 11 回 7 月 4 日 論文を書く(1) 論文の投稿から掲載まで 第 12, 13 回 7 月 18 日 論文を書く(2) 学生による発表※ ※最終回のみ授業時間が 1, 2 限 (8:30-12:10) となるので注意すること。		
教科書及び参考書	テキストを準備します。参考書等は別途推薦します。		
成績評価	出席、授業への参加の程度、課題レポートに基づいて行います。		
そ の 他	授業は、英語および日本語で行われます。		

科目番号	41721272	授業科目名	精神看護学特論Ⅱ		
タ ー ム	A1	曜 日	火	時 限	1-2
担 当 教 員	宮本 有紀				
講 義 室	医学部 3 号館 3 階 S308				
授業開始日	9 月 26 日 (火) 10:30~				
授業の目的	論文の読み方の基礎を身につけつつ、Wellness と Illness について考えることを目的とする。特に Wellness に着目し、健康増進や健康管理、自分の状態に責任を持つための実践やサポートに焦点を当て、その効果や意義、それを明らかにするための研究方法、実践現場への適用方法を考え、議論する。対象は mental health 領域にとどまらない。				
授業の方法	各回のテーマに関連する英語文献を参加者が分担し紹介する。文献は、講義初日に提示する文献あるいは担当者の推薦する文献から発表者が選んで用いる。その発表に関連したディスカッションおよび講義を行う。				
授業日程	<p>初日 9/26 のみ 10:30 開始。10/3 以降、毎週火曜日 1-2 限 (8:30-12:10)。</p> <p>9/26 オリエンテーション・総論</p> <p>10/3 身体活動 (Physical activity) の効用と実践 食事や栄養 (Meal and/or Nutrition) の効用と実践</p> <p>10/10 睡眠 (Sleep) の効用と実践 Shared decision making と Advance directives の導入と運用</p> <p>10/17 健康の自己管理 (Self-management) ピアサポート・セルフヘルプ (Peer support and/or Self help)</p> <p>10/24 特別講義：(西村聡彦さん) Wellness and Recovery に関するワークショップ</p> <p>10/31 敬意や共感、礼節 (Respect, Compassion, and/or Civility) Mindfulness, meditation, and yoga</p> <p>11/7 補完代替医療 Complementary and Alternative Medicine: CAM</p> <p>注： 講義日程と講義内容は細部に変更が生じる可能性もあります。 詳細はオリエンテーション初日に連絡します。</p>				
教科書及び参考書	上記テーマに関連する文献を担当者が選び、発表する。文献は、初日に提示する候補文献から選択するか、担当者自身の推薦する文献を使用する。				
成績評価	発表の内容と質疑への参加、出席点により総合的に評価する。				
その他	不明な点は宮本有紀 yyuki-ky@umin.ac.jp までご連絡ください。				

科目番号	41721281	授業科目名	老年看護学特論 I		
学 期	S1	曜 日	月曜日	時 限	3&4 時限
担当教員	真田弘美、森武俊、吉田美香子				
講 義 室	医学部 3 号館 S102				
授業開始日	平成 29 年 5 月 1 日 (月)				
授業の目的	高齢者ケアの関連する論文を精読し、本分野の研究動向を理解するとともに、用いられている研究方法論を理解し、批判的に吟味（クリティーク）する態度と技術を身に着ける。				
授業の方法	看護理工学的研究の各ステップ（臨床のニーズの抽出→病態メカニズムの解明または工学的危機を用いた計測→機器やシステム開発）に関連した文献について、担当者によるプレゼンテーション、受講者全員によるクリティークを行う。クリティークにおいては Nursing Research を教科書として、特に研究方法論に重点を置く。				
授 業 日 程	<p>5 月 1 日 (月) 3 限 イントロダクショ (森) 4 限 臨床領域論文 1 抄読 (大江)</p> <p>5 月 8 日 (月) 3 限 臨床領域論文 1 クリティーク (大江) 4 限 臨床領域論文 2 抄読 (村山)</p> <p>5 月 15 日 (月) 3 限 臨床領域論文 2 クリティーク (村山) 4 限 生物学領域論文 1 抄読 (峰松)</p> <p>5 月 22 日 (月) 3 限 生物学領域論文 1 クリティーク (峰松) 4 限 生物学領域論文 2 抄読 (仲上)</p> <p>5 月 28 日 (月) 3 限 生物学領域論文 2 クリティーク (仲上) 4 限 工学領域論文 1 抄読 (森)</p> <p>6 月 5 日 (月) 3 限 工学領域論文 1 クリティーク (森) 4 限 工学領域論文 2 抄読 (野口)</p> <p>6 月 12 日 (月) 3 限 工学領域論文 2 クリティーク (野口) 4 限 まとめ (森)</p> <p>初回授業にて、進め方を説明します。 その際に論文担当も割り振ますので、必ず出席してください。</p>				
教科書及び参考書	<p>Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice. 10th edition. DF Polit & CT Beck. Wolters Kluwer. 2016. ISBN-10: 1496300238</p> <p>看護研究 -原理と方法 第2版. DF ポーリット, CT ベック, 近藤潤子訳. 医学書院. 2010. ISBN-10: 426000526X</p>				
成績評価	出席、プレゼンテーション、レポート				
そ の 他	連絡教員：吉田美香子（医学部 5 号館 304, 内線 23451, mokka-tky@umin.ac.jp）				

科目番号	41721282	授業科目名	老年看護学特論 II		
学 期	A1	曜 日	月曜日	時 限	5&6 時限
担当教員	真田弘美、仲上豪二郎				
講 義 室	医学部 3 号館 N101				
授業開始日	平成 29 年 9 月 25 日 (月)				
授業の目的	高齢者人口の爆発的増加を控える現代社会においては、疾病の治療のみへの着眼では解決できない課題が山積している。本特論では、高齢者医療・看護を様々な視点、つまり生物機能の側面から、個体機能や社会機能の側面まで含んだ視点を各専門家から幅広く学び、今後の日本社会の在り方について各々が考察できるよう科学的思考を身につける。				
授業の方法	講義および討議				
授業日程	<p>以下の内容（仮）について、各専門家からご講義いただく。</p> <p>「救急医工学・片麻痺患者のリハビリテーション」</p> <p>「サルコペニア Up To Date」</p> <p>「認知症者の看護」</p> <p>「終末期を支える在宅医療」</p> <p>「慢性腎臓病患者に発生した褥瘡の治療、侵襲期の栄養管理」</p> <p>「最先端マイクロナノデバイス技術によるバイオ・医療研究」</p> <p>他</p>				
教科書及び参考書	別途指示します。				
成績評価	出席、授業への参加態度とレポート				
そ の 他	連絡教員：仲上豪二郎（医学部5号館307, 内線23424, gojiron-ky@umin.ac.jp）				

科目番号	41721291	授業科目名	母性看護学・助産学特論 I		
学 期	S1	曜 日	木	時 限	3・4
担 当 教 員	春名めぐみ 非常勤講師：島田三恵子（元大阪大学） 大田えりか（聖路加国際大学）				
講 義 室	医学部 5 号館 315				
授業開始日	4月6日（木）				
授業の目的	母性看護学・助産学分野における現在のニーズ・課題、最新の研究の動向について把握し、今後の研究課題を考察するために必要な科学的思考を身につける。具体的には、根拠に基づく医療・看護と文献レビューの基本的な考え方および方法論について学ぶ。				
授業の方法	講義・演習 根拠に基づく医療・看護（Evidence-based Medicine・Nursing）と文献レビューの基本的な考え方および方法論について、演習を通して学ぶ。 非常勤講師による講義では、最新の知見・動向をもとにディスカッションを行う。				
授業日程	1) 4月6日（木） 13:00-16:40 オリエンテーション, EBM の基本と考え方（春名） 2) 4月13日（木） 13:00-16:40 PICO から検索、バイアスの評価の方法（大田） 3) 4月20日（木） 13:00-16:40 メタ解析の手法（大田） 4) 5月1日（月） 13:00-18:35 ※時間帯にご注意ください 研究疑問と研究計画そして論文を仕上げるまで（島田） 5) 4月27日（木） 13:00-16:40 文献レビューの基本的な考え方・方法論（春名） 6) 5月11日（木） 13:00-16:40 助産学分野における研究課題とその動向（春名／大田）				
教科書及び参考書	Higgins JPT, Green S (editors). Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions Version 5.1.0 [updated March 2011]. The Cochrane Collaboration, 2011. Available from www.cochrane-handbook.org . Sterne, J. A., Egger, M., & Smith, G. D. (2001). Systematic reviews in health care: investigating and dealing with publication and other biases in meta-analysis. <i>BMJ: British Medical Journal</i> , 323(7304), 101. 諏訪敏幸. 看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説. 近畿病院図書室協議会. 2013.				
成績評価	出席率、発表、試験を総合的に評価して判定する				
そ の 他	※受講希望者は、母性看護学・助産学分野の春名(E-mail: mharuna@m.u-tokyo.ac.jp)、または内線 23379 までご連絡下さい。				

科目番号	41721292	授業科目名	母性看護学・助産学特論Ⅱ		
学 期	A1	曜 日	木	時 限	3・4
担 当 教 員	春名めぐみ、笹川恵美、米澤かおり 非常勤講師：我部山キヨ子（元京都大学）				
講 義 室	医学部5号館 315				
授業開始日	9月14日（木）				
授業の目的	母性看護・助産実践に関連する理論、モデルを学ぶとともに、研究計画の立案、論文作成に必要な知識・技術を身につける。具体的には、実際の研究例をもとに、研究の組み立て方、研究手法、論文作成方法等について学ぶ。さらに当分野におけるトピックスについての討論を通して、論理的な思考方法を学ぶ。				
授業の方法	講義・演習 講義：論理的な文章を書くための基本的な考え方と方法論についての演習（トピックスについての討論）、および非常勤講師による講義				
授 業 日 程	1) 9月14日（木）13：00-16：40 論理的な文章を書くためにⅠ（春名） 2) 9月15日（金）13：00-16：40 Publishing ethics（米澤） 3) 9月25日（月）13：00-16：40 論理的な文章を書くためにⅡ（春名） 4) 9月27日（水）13：00-16：40 海外をフィールドとした研究手法（笹川） 5) 10月11日（水）13：00-16：40 助産学に関連する理論とその応用（春名） 6) 10月13日（金）10：25-16：40 ※時間帯にご注意ください 助産学研究・教育の課題と展望（我部山）				
教科書及び参考書	Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb, Joseph M. Williams. The Craft of Research (Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing) 2008. Gary Blake, Robert W. Bly. Elements of Technical Writing (Longman; 1版) 1993. William Strunk Jr., E. B. White. The Elements of Style, Fourth Edition. (Longman; 4版) 1999. Thomas A. Lang 著、宮崎喜久子・中山健夫訳、トムラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド、シナジー				
成績評価	出席率、発表、試験を総合的に評価して判定する				
そ の 他	※受講希望者は、母性看護学・助産学分野の春名(E-mail: mharuna@m.u-tokyo.ac.jp)、または内線 23379 までご連絡下さい。				

科目番号	41721311	授業科目名	保健医療情報学特論 I		
タ ー ム	S1+A1	曜 日	木	時 限	13:00-14:45
担 当 教 員	大江 和彦 (教授)				
講 義 室	附属病院管理研究棟 4F 企画情報運営部 会議室				
授業開始日	4月6日				
授業の目的	保健・医療情報学に関わる研究課題を出席者が順にプレゼンし、保健医療分野の現在の課題やトピックスと対比させながら議論することにより、当該分野における情報学の役割を学ぶことを目的とする。				
授業の方法	教室のスタッフ、研究生、院生らが当番生で研究課題または関心のある医療情報に関する課題を、その背景、手法、国内外の研究状況や先行研究と対比しながら、40分程度でプレゼンテーションし、その後に質疑応答、教室員とともに議論をする。発表担当の当番は、事前に輪番で指名される。発表担当者は、1週間前までに話題または論文タイトルをアナウンスする。発表者以外の参加者は事前に目を通し、当日質問することにより議論に参加する。				
授 業 日 程	4月から7月下旬まで原則、毎週木曜日の3限 (13:00~14:45) に実施する。 なお、教室の事情により事前通知のもとで、日程変更する場合がある。				
教科書及び参考書	『医療情報 第5版 医療情報システム編』 (篠原出版社)				
成績評価	出席、発表、質疑参加など総合的に評価する。				
そ の 他	履修希望者は事前に ohc-office@adm.h.u-tokyo.ac.jp までメールにて連絡をして下さい。				

科目番号	41721312	授業科目名	保健医療情報学特論Ⅱ		
タ ー ム	A2+W	曜 日	木	時 限	13:00-14:45
担 当 教 員	大江 和彦 (教授)				
講 義 室	附属病院管理研究棟 4F 企画情報運営部 会議室				
授業開始日	11月30日				
授業の目的	保健・医療情報学に関わる英文原著論文を輪読し、保健医療分野の現在の課題やトピックスと対比させながら議論することにより、当該分野における情報学の役割を学ぶことを目的とする。				
授業の方法	最近 (1年以内)の医療情報学関係を中心とした論文誌から、発表担当者が1論文を教員指導のもとで選択し、その概略を40分程度でプレゼンテーションし、40分程度の質疑応答および、教室員とともに議論をする。 発表担当の当番は、事前に輪番で指名される。 発表担当者は、1週間前までに話題または論文タイトルをアナウンスする。 発表者以外の参加者は事前に目を通し、当日質問することにより議論に参加する。				
授業日程	12月から2月まで原則、毎週木曜日の3限 (13:00~14:45) に実施する。 なお、教室の事情により事前通知のもとで、日程変更する場合がある。				
教科書及び参考書	Biomedical Informatics: Computer Applications in Health Care and Biomedicine (Health Informatics) Springer; 4th ed. 2014 版				
成績評価	出席、発表、質疑参加など総合的に評価する。				
そ の 他	履修希望者は事前にohe-office@adm.h.u-tokyo.ac.jp までメールにて連絡をして下さい。				

科目番号	41721321	授業科目名	放射線健康科学特論 I		
タ ー ム	S1&A1	曜 日	木	時 限	5
担 当 教 員	宮川 清				
講 義 室	臨床研究棟：A909				
授業開始日	4月6日				
授業の目的	現代の医療において、放射線を有効に活用するために、そのリスクとベネフィットについて最先端の生命科学の視点から理解を深める。				
授業の方法	放射線生物学における最新の論文を学生が紹介し、その内容について討議する。				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線によるDNA損傷応答・修復 2. 抗がん剤によるDNA損傷応答・修復 3. ゲノム維持機構 4. 臨床腫瘍学 <p>以上の領域におけるトピックスを毎週選定する。</p>				
教科書及び参考書	別途指示				
成績評価	出席状況				
そ の 他					

科目番号	41721322	授業科目名	放射線健康科学特論 II		
タ ー ム	A2&W	曜 日	木	時 限	5
担当教員	宮川 清				
講 義 室	臨床研究棟：A909				
授業開始日	11月30日				
授業の目的	現代の医療において、放射線を有効に活用するために、そのリスクとベネフィットについて最先端の生命科学の視点から理解を深める。				
授業の方法	放射線生物学における最新の論文を学生が紹介し、その内容について討議する。				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線によるDNA損傷応答・修復 2. 抗がん剤によるDNA損傷応答・修復 3. ゲノム維持機構 4. 臨床腫瘍学 <p>以上の領域におけるトピックスを毎週選定する。</p>				
教科書及び参考書	別途指示				
成績評価	出席状況				
そ の 他					

科目番号	41721351	授業科目名	行政看護学特論 I		
タ ー ム	S2&A1	曜 日	水曜日	時 限	1,2 限
担 当 教 員	成瀬昂, 藤崎万裕, 寺本千恵 (東京大学大学院 地域看護学分野) 大木幸子 (杏林大学 保健学部) 小宮山恵美 (北区健康福祉部) 深堀浩樹 (東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科) 吉岡京子 (東京医科大学 医学部看護学科) 他				
講 義 室	5号館 109号室				
授業開始日	2017年9月13日				
授業の目的	健康政策や公衆衛生看護実践に関わる倫理的問題を議論する能力を養うとともに、事業化・施策化やリーダーシップに関する実践的能力を養うことを目的とする。 具体的には、専門的知識を学び、批判的思考力を養うため課題やディスカッションに取り組む。				
授業の方法	講義				
授 業 日 程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護と公共論 2. 公衆衛生看護における倫理：理論 3. 行政機関における健康政策：施策化、評価 4. 行政制度と保健師業務の関係 5. 行政保健師による事業化と施策化：実践 6. 行政保健師のリーダーシップと管理能力：理論 7. 行政機関で働く看護職の仕事と課題 				
教科書及び参考書	川崎修・杉田敦編「現在政治理論」有斐閣アルマ, 2012 小林正弥著「サンデルの政治哲学<正義>とは何か」平凡社, 2010				
成績評価	出席、発表・討議、レポートにより評価する。				
そ の 他	保健師教育コース必須科目。 講義日程、講師は変更になる場合があるため注意すること。 受講希望者は成瀬 (takanaruse-tky@umin.ac.jp) まで連絡すること。				

科目番号	41721361	授業科目名	創傷看護学特論 I		
学 期	S1	曜 日	月曜日・金曜日	時 限	月、金 3&4 時限
担当教員	真田弘美、峰松健夫、玉井奈緒				
講 義 室	医学部 3 号館 S102 もしくは S201				
授業開始日	平成 29 年 4 月 7 日 (金)				
授業の目的	創傷治癒は、生体の複雑な反応が適切に制御されることで進行する。創傷治癒過程の正しい理解と創傷看護学研究の遂行には、臨床的な知識はもとより基礎生物学、物理学・工学分野における幅広い知識が必要である。本講義では、創傷看護学に関する研究を理解する上で必須となる基本的知識（臨床的、工学的、基礎生物学的知識）の習得を目的とする。				
授業の方法	講義形式。毎回、小テストを行う。				
授 業 日 程	<p>(1) 4 月 7 日 (金) 老年看護学/創傷看護学分野：仲上豪二朗</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イントロダクション ● 皮膚の構造と機能 ● 創傷治癒と管理 <p>(2) 4 月 10 日 (月) 老年看護学/創傷看護学分野：真田</p> <p>褥瘡の基礎と看護学の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 褥瘡の病態 ● リスクアセスメント ● 褥瘡アセスメント など <p>(3) 4 月 14 日 (金)</p> <p>計測の原理とデータ化、医療・介護・福祉研究における計測デバイスの活用 ライフサポート技術開発学 (モルテン) 寄付講座：森・野口</p> <p>(4) 4 月 17 日 (月)</p> <p>新たな看護技術創生におけるナースィング トランスレーショナル リサーチ 社会連携講座アドバンストナースィングテクノロジー：村山・土井</p> <p>(5) 4 月 21 日 (金) (S201)</p> <p>バイオリジカルナースィングの基礎と応用 社会連携講座スキンケアサイエンス：峰松・玉井</p> <p>(6) 4 月 24 日 (月) (S102)</p> <p>創傷看護学における超音波画像診断技術の応用 社会連携講座イメージング看護学：藪中・吉田</p> <p>(7) 4 月 28 日 (月) (S102)</p> <p>臨床看護研究の基礎 (吉田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 臨床疑問からリサーチクエスションの立て方 ● 研究デザインの選び方 ● 結果の信頼性担保 (調査方法の信頼性・妥当性、統計の知識) ● 研究対象者の一般化・外挿性 (想定母集団の代表性) 				
教科書及び参考書	Sanada H et al., Bioengineering Nursing: New Horizons of Nursing Research. NOVA Publishers, 2014 真田弘美, 森武俊：看護理工学, 東京大学出版会, 2015.				
成績評価	出席および小テスト (毎回の講義後)				
そ の 他	連絡教員：玉井奈緒 (医学部 5 号館 304, 内線 23451, ntamai@umin.ac.jp)				

科目番号	41721362	授業科目名	創傷看護学特論 II		
学 期	A2	曜 日	月曜日	時 限	5&6 時限
担 当 教 員	真田弘美、仲上豪二郎				
講 義 室	医学部 3 号館 N101、S102、S201/202				
授業開始日	平成 29 年 11 月 20 日 (月)				
授業の目的	難治性潰瘍の管理は、発生の予測・予防に始まり、創のアセスメント、治療などが含まれ、創傷管理に従事する看護師は多岐にわたる知識を要求される。本講義では、創傷管理に関連する基礎研究から実践までを含んだ最新の知見を各分野の専門家から学び、また討議を通じて創傷管理に対する科学的思考能力を身につけることを目的とする。				
授業の方法	講義および討議				
	<p>以下の内容（仮）について、各専門家からご講義いただく。</p> <p>「看護領域における超音波検査の基礎と臨床応用（創傷管理を中心に）」</p> <p>「創傷ケアの基本」</p> <p>「創傷治癒の基礎と応用」</p> <p>「褥瘡のケア：体圧分散寝具」</p> <p>「肥満による皮膚生理機能の変化」</p> <p>「創傷治癒学の最先端」</p> <p>他</p>				
教科書及び参考書	別途指示します。				
成績評価	出席、授業への参加態度とレポート				
そ の 他	連絡教員：仲上豪二郎（医学部5号館307, 内線23424, gojiron-tky@umin.ac.jp)				

科 目 名	医療コミュニケーション学特論 I [科目番号：41721381]		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	火曜 3、4 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	石川ひろの 他		
授 業 の 目 的	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。</p> <p>医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1)コミュニケーションの基本的な理論、(2)コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各回 1 テーマの講義を行う。 ・ テーマに基づいた追加資料の配布やグループワークを行うことがある。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月 11 日 3 限	医療コミュニケーション学概論	石川ひろの
	4 月 11 日 4 限	保健医療専門職の教育 コミュニケーションスキルの教育と評価	石川ひろの
	4 月 18 日 3 限	ヘルス・コミュニケーションの方略① 個人の行動変容を促すコミュニケーション	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)
	4 月 18 日 4 限	患者・市民の教育 賢い患者・市民を育てる試み	山口育子 (COML)
	4 月 25 日 3 限	グループ・組織のコミュニケーション グループダイナミクスとリーダーシップ	石川ひろの
	4 月 25 日 4 限	ヘルス・コミュニケーションの方略② 行動変容を促す保健医療文書の作り方	奥原剛
	5 月 9 日 3 限	ヘルス・コミュニケーションの方略③ 集団の行動変容を促すコミュニケーション	石川善樹 (キャンサースキャン)
	5 月 9 日 4 限	政策形成とアドボカシーのコミュニケーション アドボカシーの概念と人材育成	神馬征峰 (国際地域保健学)
	5 月 16 日 3 限	メディア・コミュニケーション①: テレビ	市川衛 (NHK)
	5 月 16 日 4 限	ヘルス・コミュニケーションの方略④ エンターテイメント・エデュケーション	加藤美生
	5 月 23 日 3 限	メディア・コミュニケーション②: 新聞	本田麻由美 (読売新聞)
	5 月 23 日 4 限	ヘルス・コミュニケーションの研究 コミュニケーションの分析と実証研究	石川ひろの
	5 月 30 日 3 限	メディア・コミュニケーション③: インターネット	中山和弘 (聖路加国際大学)
	5 月 30 日 4 限	まとめ: グループ討論と総合討論	石川ひろの、 加藤美生、奥原剛
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. 4th ed. Oxford University Press. 2013 ・ Peter G. Northouse & Laurel L. Northouse 著. 萩原明人 訳. ヘルス・コミュニケーション 改訂版. 九州大学出版会. 2010 ・ Debra L. Roter & Judith A. Hall 著. 石川ひろの、武田裕子 訳. 患者と医師のコミュニケーション—より良い関係作りの科学的根拠. 篠原出版新社. 2007 ・ 藤崎和彦、橋本英樹 著. 医療コミュニケーション研究会 編. 医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ. 篠原出版新社. 2010 		
成績評価の方法	講義への出席 (30%)、レポート (70%) による。		
他の授業との関連	医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学、科学技術コミュニケーション、医学研究と CDISC 標準、等と関連する。		

科 目 名	医療コミュニケーション学特論Ⅱ [科目番号：41721382]		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	水曜 3 - 4 限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	石川ひろの 岡田昌史 他		
授 業 の 目 的	効果的な医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的に uptake、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場(医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等)でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。 演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6月7日(水) 13:00-16:40	文書によるコミュニケーション 行動変容を促す保健医療文書を作る	石川ひろの 奥原剛
	6月14日(水) 13:00-16:40	インターネットによる情報発信 インターネット演習(1) 注意：ノートPC持参	石川ひろの 岡田昌史
	6月21日(水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 演習(1)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
	6月28日(水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習(2)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
	7月5日(水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習(3)	園田由紀 (日本 MBTI 協会)
	7月12日(水) 13:00-16:40	メディア報道のあり方を考える メディアドクター演習	渡邊清高 (帝京大学)
	7月19日(水) 13:00-16:40	行動変容を支援するスキル コーチング演習	田口智博 (三重大学)
	7月26日(水) 13:00-16:40	インターネットによる情報発信 インターネット演習(2) 注意：ノートPC持参	石川ひろの 岡田昌史
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 田近秀敏：[実践]ビジネス・コーチング—プロフェッショナル・コーチの道具箱、PHP 研究所、2003 園田由紀(訳)：MBTI への招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002 梅田望夫：ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる、ちくま新書、2006 		
成績評価の方法	演習への参加(50%)、演習内でのプレゼンテーション(20%)、作成した資料・レポート(30%)によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。		
他の授業との関連	「医療コミュニケーション学」講義の受講が望ましい。		